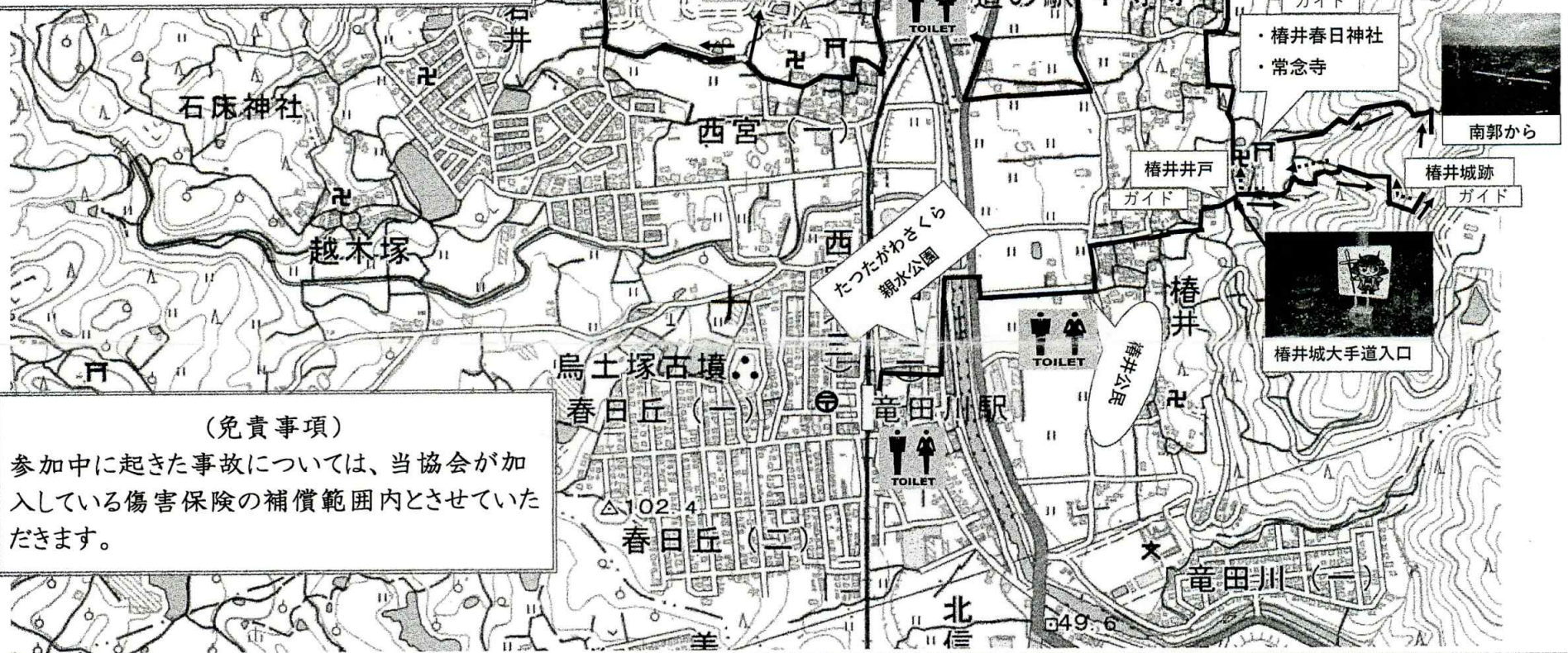


椿井城跡と道の駅「大和へぐり・
くまがしステーション」
総距離10km

令和4年2月9日(水)
近鉄竜田川駅
9時30分スタート

次回例会
令和4年2月19日(土)9時30分
JR五条駅スタート
五条市の大師伝説
総距離11km

ウォーキング中のスナップ写真は、当協会に
帰属し、協会の事業活動以外には使用しま
せん。



ウォーキングコース

竜田川駅(たつたがわさくら親水公園)→椿井井戸→椿井城跡(海
抜220m)→椿井春日神社→平等寺春日神社→道の駅「くまがしス
テーション」→平群中央公園(昼食)→平群駅(ゴール)

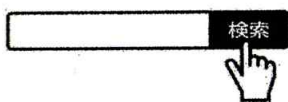
(免責事項)

参加中に起きた事故については、当協会が加
入している傷害保険の補償範囲内とさせていた
できます。

NPO法人

奈良県ウォーキング協会
〒634-0832
橿原市五井町187-5
橿原ラクスビル3F
TEL 0744-24-3110
fax 0744-29-5195

※QRコードで奈良県ウォーキング協会ホームページがすぐに見ることができます。

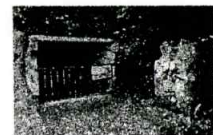


E-Mail nwa-nara@way.ocn.ne.jp

☆椿井城跡 矢田丘陵の稜線上に築かれた連郭式の山城跡です。
東西150m、南北300mほどで、多くの曲輪や深い切通し堀、土塁等が
残っておりごく一部に石垣が見られる。

当初は椿井氏が築城し、後に嶋氏に移ったとの伝承があります。戦国
末には筒井傘下の嶋左近と信貴山城に入った松永久秀との間で幾度
もの争奪戦が繰り広げられたようです。天正8年(1580年)、織田信長
が筒井順慶に命じ、郡山城に残して大和の緒城を破却させており、この
城もこの時に放棄されたとみられます。

☆椿井井戸 用明天皇2年(587年)、聖徳太子が椿井氏の祖先と伝
えられている平群臣神手とともに物部守屋を征伐するとき、苦戦を続けて
いて兵の士気が落ちてきました。神手がこの地に戦況の挽回と戦勝祈
願に訪れた際、椿の杖を突き立てると不思議なことに杖は一夜にして芽
を吹き、きれいな冷泉が噴き出たといひます。これを飲んだ兵士たちの士
気が大荷に盛り上がり、聖徳太子と神手たちは守屋との戦いに大勝す
ることができたといひます。



椿井井戸

☆平等寺春日神社 平等寺集落の東にあり平等寺・下垣内の氏神
で天兒屋根命を祀っています。

雨乞や順気祈願として下垣内の氏子中より文久元年(1861)に奉納
された「なもて踊り」の絵馬があり、境内には多くの石灯籠が奉納されてい

令和4年（2022年）2月9日（水）奈良県ウォーキング協会

～ 椿井城と道の駅「大和路へぐり・くまがしステーション」

【コース】

近鉄生駒線・竜田川駅～たつたがわさくら親水公園（スタート受付）～椿井公民館（トイレ休憩）～

椿井井戸（平群町観光ボランティアガイドの会の説明あり）～椿井城大手道入口～宮裏山古墳～

椿井城跡・標高 220m（ガイド説明あり）～宮山塚古墳～椿井春日神社（ガイド説明あり）～

平等寺春日神社（ガイド説明あり）～道の駅「大和路へぐり・くまがしステーション」～

平群中央公園（昼食）～近鉄生駒線・平群駅（ゴール）10 km、歩数約 18,000 歩、参加者 110 名

平群谷の将「嶋左近」

椿井城を居城としていたとされる武将「嶋左近(しまさこん)」は、中世の平群谷を支配していた嶋氏の後裔で、筒井氏・石田三成に仕えたとされる。武勇、知略に優れ、幼少期から中国の兵法書に親しみ、長刀を得意とした文武両道に優れた少年として成長したとされているが、出生の年や出身地など不明な部分が多い。

12歳のときに筒井家に仕えたが、1582年(天正10年)山崎の合戦の2年後、筒井順慶が亡くなり、秀吉の命で筒井家は伊賀に転封になった後、左近も筒井家を去ったとされる。

その後、石田三成に三顧の礼をもって懇願され仕官し、「治部少(石田三成)に過ぎたるものが二つあり、嶋の左近と佐和山の城」と謳われた名士であり、軍師として活躍する。

1600年(慶長5年)に起きた日本史上最大の戦といわれる関ヶ原の戦いで、息子たちと共に戦死したと同時代の記録にあるものの、その生涯についてはいまだ謎の多い人物である。

※嶋左近の表記については島左近とする場合もある。

鎮宅金刀
鬼子母書
八幡大菩薩
嶋左近



嶋左近の旗印



平群町イメージキャラクター
左近くん

椿井城跡からの眺望

椿井城跡からは平群谷を一望することができ、椿井城と対峙する信貴山城があった信貴山など生駒山系を見渡すことができます。また、北郭からは大和三山など飛鳥方面を望むこともできます。



信貴山方面の眺め



生駒山方面の眺め

椿井城跡案内図



■ 椿井城跡は山上にあります。城跡に至るには山道を軽登山(ハイキング)します。道の駅からの標高差は約200mあります。また、城跡探索は高低差のある斜面の登り降りが必要になります。滑りにくいシューズでの見学をお勧めします。

■ 椿井城跡、登城口の周辺には、駐車場・トイレはありません。駐車場・トイレは道の駅「くまがしステーション」をご利用ください。

お問い合わせ

観光情報 0745-45-1017
(平群町 観光産業課)

文化財・史蹟 0745-45-2101
(平群町 教育委員会)

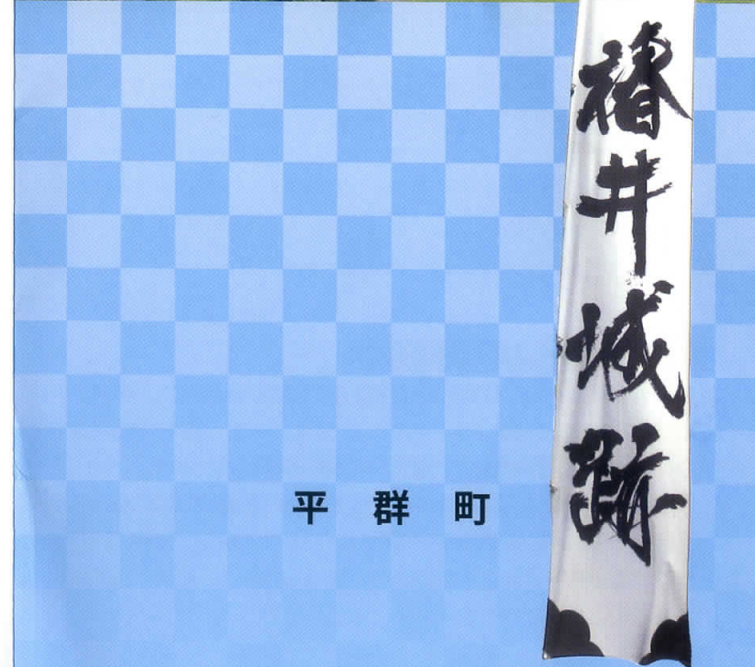
2017年12月

戦国平群の山城跡

嶋左近ゆかりの山城

つばいじょう

椿井城



平群町

椿井城跡の解説

椿井城の特徴

椿井城跡は矢田丘陵の南西端位置する南北方向の尾根上に300m以上にわたって築造された山城で、曲輪(くるわ)が直線上に連続する「連郭式山城」の特徴を備えています。

平群町内では平群谷を挟んで対峙する、松永久秀の居城であった「信貴山城」に次いで大きい山城です。

椿井城は南北2つのピーク(頂部)を持ち、北側の高いピークに築かれた曲輪群が主郭にあたると考えられています。主郭から南側に向けて曲輪が連続し、途中にある山の鞍部を挟んで更に南側へと曲輪が連続しています。

南北に連続する曲輪と曲輪の間には、敵の侵攻を防ぐ「堀切(ほりきり)」と呼ばれる防御施設が5箇所設けられ、一番南側の堀切には「土橋(どばし)」が設けられています。椿井城の堀切は主郭北側を除き、縦堀や横堀に展開しています。

このような城郭の構造から、南方からの攻撃に防御の重点が置かれていると考えることができます。

また、主郭は西側に「腰曲輪(こしくるわ)」や連続する月形の曲輪を配置し、東側に「横堀(よこぼり)」を配置することで東西方向の防御が行われています。

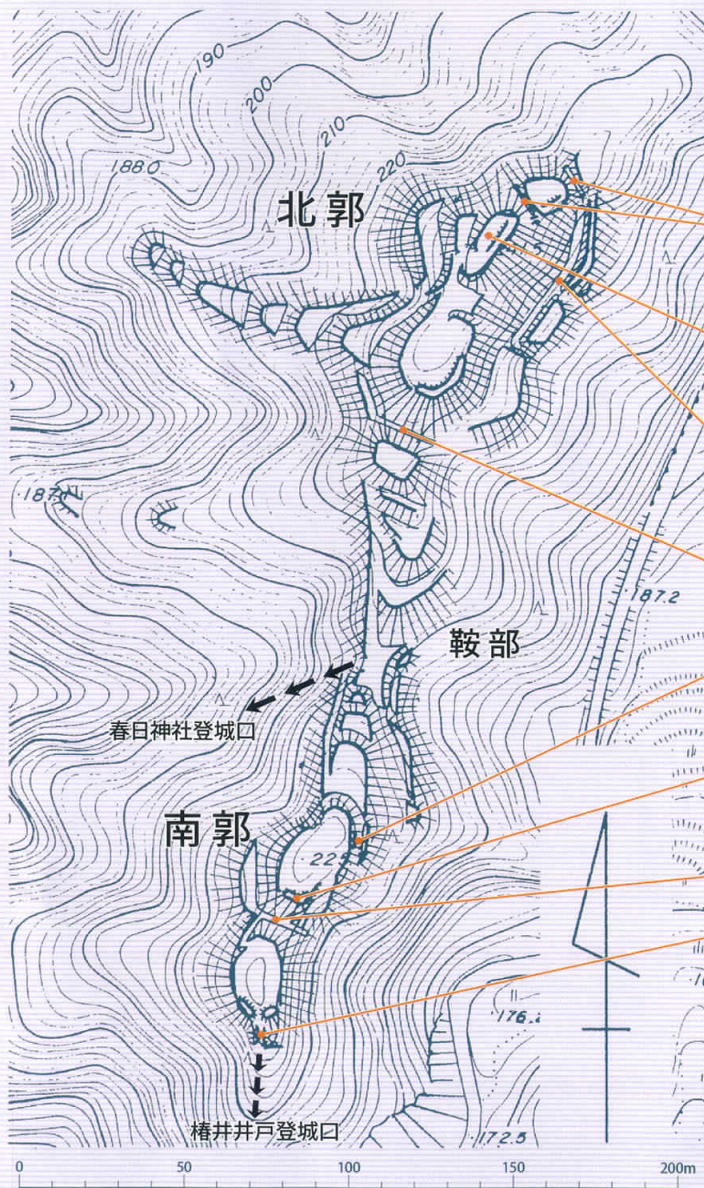
椿井城は中世・戦国時代、当時平群谷を支配していたとされる嶋氏によって築かれたという説やそれより以前に椿井氏によって築かれたという説など諸説が存在しています。また、近年の城郭研究では城郭の規模や構造などから、信貴山城を居城とした松永久秀の勢力下で築かれた山城という説もあります。

椿井城跡見学者の皆さまへお願い

椿井城跡は中世に築かれた貴重な歴史資源の山城跡で、曲輪や堀切などの城郭遺構が数多く残されています。また、城郭一帯は埋蔵文化財包蔵地となっており、順次学術調査を実施しています。

城跡の見学時は、これら貴重な城郭遺構の破壊につながる行為(掘削や発掘など)や遺物の持ち帰りなどは行わないようお願いします。また堀切や切岸など急斜面での無理な昇降は、危険でもあり、遺構破壊にもつながりますので、お止めください。

椿井城跡遺跡分布図



資料提供：平群町教育委員会

城郭遺構の紹介

● 曲輪 (くるわ)

山を削り平坦地とし、陣地などに利用した部分で、周りは斜面を人工的に削り急にした切岸や土塁などで防御されている。

● 切岸 (きりぎし)

曲輪の周りなどで、敵兵が安易に登れないように、人工的に急にした斜面。

● 堀切 (ほりきり)

尾根上に連続する曲輪と曲輪の間に、敵の侵攻を防ぐために設けられた空堀で、山城の最も基本的な堀。V字形のものを葉研堀(やげんぼり)と呼ぶ。

● 主郭 (しゅかく)

椿井城の最頂部(標高241.5m)に位置する城の中心として機能した曲輪。主郭の東側は土塁が築かれ、北側の曲輪との間には小さな堀切が設けられている。

● 横堀 (よこぼり)

曲輪の外縁に沿ってめぐらされた堀で、山城の堀の中では後期に発達したものの。

● 堀切 (ほりきり)

曲輪の外縁部の崩れを防ぐために設けられた土留め。城壁に用いられる石垣と比べると小規模。

● 石積み (いしづみ)

曲輪の外縁部の崩れを防ぐために設けられた土留め。城壁に用いられる石垣と比べると小規模。

● 土塁 (どるい)

曲輪の縁辺部に、曲輪平坦部より一段高く土が盛られた部分。敵兵から身を隠すために利用したり、柵を築いたりした。

● 堀切 (ほりきり)

堀切を越えるために設けられた、土で作られた橋。堀切には土橋のほか、戦時に外すことができる木橋が架けられ、曲輪間の行き来が確保されていた。



土 塁



主 郭



堀 切



南 郭



石 積 み



土 橋

樗井城緊急整備に伴う見学制限説明図

C地点より北側、北郭群への見学を
当面制限します



ご案内

見学者の増加で樗井城の遺構が傷んできており、南郭部分より順次、柵等を設置して見学路や保護部分を区切り、遺構の保護作業を進めます。

北郭部分は平成25年4月1日より当面、見学を制限します。

平群町教育委員会

「案内板」の設置場所と文面

A. B. C 地点